

国指定史跡「しだみ古墳群」を訪ねる

今回の歴史講座は国指定史跡の「しだみ古墳群」について、1回目が講義、2回目は現地見学でした。お話を聞くだけよりも、目で見て学ぶことはとても分かりやすく有意義なことです。いただいた資料から整理するため私なりのまとめをしました。きょう見学したのは龍泉寺としだみ古墳群です。

1 尾張四観音の一つ「龍泉寺」

はじめに向かったのは龍泉寺です、ここは訪れたことはないものの龍泉寺温泉の名前はよく聞きます。バス車中では先輩の新美さんとおしゃべりに夢中で、あれっもう着いたのかという感じでした。が、とても有意義な会話が出来ました。と言うのも新美さんからいろいろと教わりました。

尾張四観音は荒子観音、笠寺観音までは知っていましたが、甚目寺観音は知らなかったですし、龍泉寺観音も知らなかったのです。それよりも何よりも、お寺さんは同じお寺さんなのに普通のお寺さんと観音寺とどのように違うのか。つまり、阿弥陀さまや菩薩さまと観音さまは同じ仏さまなのに何が違うのか、ということです。

このことについて新美さんはとても分かりやすく説明してくれました。仏様には2種類あって阿弥陀さまや菩薩さまはあの世でお導き下さる、それに対し、観音さまはこの世においてお導き下さるのだという。それも33の場面に現れるので33観音と呼ばれる……なるほど、そうだったのか。このことを初めに考え付いたのは誰なのか、よく考えたものと感心する。元々仏さまは、人々が「死」をおそれたことから生まれたものであり、人間が創造したものだ。いろいろな仏さまが生まれたが、いずれもあの世への恐れから頭のよい人が創り出したと言えるのだから。それならば知多四国88ヶ所のお参りよりも、西国33観音にお参りした方が良いのかな？ でも、観音様のお参りは女の人が多くお参りすると聞くが…。

それとお互いの父親が太平洋戦争の末期に、フィリピンのミンダナオで戦死していることも話題になった。私の父は終戦の5日前、8月10日に戦死した。新美さんの父親も6月と言ったかな……戦争がほんの少し早く終わっていたら、という同じ思いなのだ。



山門



多宝塔

さて、龍泉寺に到着すると立派な山門と朱色がはぜる多宝塔が目飛び込んできます。門の左右には阿吽の形相をした仁王像がお寺を守っています。本堂でお参りをしてすぐわきから奥へ進むと、そこにはお城があります。何でこんなところにお城が、と誰も思いますが、それは宝物館でした。この地にあったという龍泉寺城を模したといいます、中には円空作の仏さまなどが展示されていました。私はこれらの仏さまが何故高い評価を受けるのかよくわかりません。荒っぽい粗雑な彫り物のように見えます。少し手ほどきを受けた人なら、容易に彫ることが出来そうに見えてしまいます。それより、何故かそこには終戦の御前会議の絵が掲げられていました。私にはこの絵が何故ここにあるのか、その事の方がよほど興味を引きました。

★龍泉寺の生い立ちと国の重要文化財

このお寺は天台宗に属し寺伝によると最澄が熱田神宮に参籠の折、多羅羅が池より湧出した馬頭観音像をお祀りしたものであるという。熱田神宮の奥の院ともいう。

木像地藏菩薩立像と仁王門（山門は慶長年間 1596-1615 の再建）は国指定の重要文化財。元和 2 年再興の多宝塔や円空作の仏像が多くあることで知られています。本堂の裏手には宝物館のほかに、緑のモミジなどに囲まれた石庭もあり、その先には遠くに街を眺められる展望台があります。

2 早めのランチは田舎の立派な食堂で

移動して 11 時にはランチとなる。広い道路から 50m ほど入ったところの 3 階建ての立派な建物「魚春」さん。刺身定食を早々と食べ終え周りをうろつくと、背丈ほどもあるススキが生い茂る一角があれば、道路が途中で途切れていたりする。でも、立派なお医者さんもある場所で、区画整理の途中らしい。確か数日前のニュースで、志段見地区の区画整理のことが取り上げられていた。幹線道路はできているが開発はこれからの地域ようだ。でもお店の人の話ではここに出店して 20 数年とか。この辺りの地価はいかほどの物だろうかと思った。

3 国指定の「しだみ古墳群」とは…

12:30 しだみ古墳群ミュージアム前に到着。広いエリアに来年 3 月末開館を目指してミュージアムの建設が進められていた。学芸員の酒井さんの説明では、古墳群の解説、出土品の展示が予定されるという。立派な施設の建設は、さすが名古屋市ならでのこと。古墳時代は 3 世紀から 7 世紀で古墳の数は全国で 20 万基以上、一番多いのは兵庫県 16500 基、愛知県は約 2800 基ありそのうち名古屋市内に 200 基、ここしだみ古墳群に 66 基ある。その形式は前方後円墳、ホタテ貝式古墳、円墳、前方後方墳、方墳などがある。

しだみ古墳群は濃尾平野の東端、名古屋市域では北東端の上志段味にある。東谷山の山頂から山すそ、庄内川に沿って広がる河岸段丘上、東西 1.7 km・南北 1 km に分布し、確認されている古墳は 66 基、うち 33 基が残る。現存する古墳のうち、白鳥塚古墳、尾張部神社古墳、中社古墳、南社古墳、志段味大塚古墳、勝手塚古墳、東谷山白鳥古墳の 7 基が、「史跡 志段味古墳群」の名称で国史跡に指定されている。

5 月にガイド研修で大阪の今城塚古墳を訪ねたのに続き、今年 2 回目の古墳見学となったが、その感想を忘れないうちに整理しました。

① 国指定史跡の古墳

	形	大きさ	出土品・他	築造時期
白鳥塚古墳	前方後円墳	墳丘長約 115m	石英	4 世紀前半
尾張戸神社古墳	円墳	墳径約 27.5m	無し	4 世紀前半
中社古墳	前方後円墳	墳長約 63.5m	埴輪	4 世紀中頃
南社古墳	円墳	墳径約 30m	埴輪	4 世紀中頃
志段味大塚古墳	帆立貝式古墳	墳丘長約 51m	馬具・埴輪・金具・土器	5 世紀後半
勝手塚古墳	帆立貝式古墳	墳丘長約 53m	埴輪	6 世紀初
東谷山白鳥古墳	円墳	墳径約 17m	馬具・須恵器	6 世紀末

② 小さなピラミッドを思わせる「志段味大塚古墳」



バスを降りて少し階段を上ると、奥の住宅を背にして広い草原が広がっている。少し先に石を積み上げたような小さなピラミッドが現れた。近くまで行くと高さは5～6m位あるのだろうか、側面には石が張り付けられている。おまけに頂きに登るための階段にはステンレスの手すりまで取り付けられている。国指定史跡というが、人工物を取り付けても良いのか不思議だったが、学芸員の酒井さんに聞くとOKとのこと。名古屋城の木造再建を巡って、エレベーターは元の姿に復元するのだから設置しないという、市側の意向に対して障害者団体の皆さんからクレームがついてちょっとした騒ぎになっている。でもここでは問題ないようだった。

頂までって説明を受けたのだが、大正12年に京都帝国大学の梅原末治氏と地元の人々によって発掘調査が行われ、馬具・埴輪・太刀などたくさんの副葬品が出土し、近年では長さ3.5mの割竹形木筒の痕跡が見つかり、それが復元してあります。でも、中は空だったといいます。円墳の周りにはたくさんの埴輪の複製品が並べられており、この意味は魔物とか外部からの侵入者を防ぐための物らしいとのこと。（下の写真は古墳の頂で木筒を前に説明を受ける）

そして、古墳の側面には実際にこの古墳に使われていた丸石の一部を使って、タイルのように張り付けて古墳を復元しています。しかし、このようにきちんと作られていると何か偽物のような感じがしてなりません。それと、この形は一度訪れたメキシコのピラミッドによく似ていると思いました。まさか関連があるとは思いませんが……。さらに、北西側には造り出しというのでっぱりがあり、ここはメキシコのピラミッドと違う点です。

③ 西大久手古墳

次に見学したのはホタテ貝の形をした西大久手古墳で、巫女形埴輪や馬の形をしたものや鶏の形の埴輪が見つかっており、東日本では一番古いものだという。

④ ヤマトタケルの伝説がある白鳥塚古墳



今度はバスで移動して白鳥塚古墳を見学しました。志段味古墳群の中で一番初めに国の史跡に指定されました。古墳群の中で最も大きく、石英が大量に出土しており、墳丘の表面にまかれていたといいます。中には 30 c m 程度の大きな石英も見つかっていると。周りを周濠と呼ぶ堀が取り巻いています、頂まで歩いて上りましたが急ぐと息が切れるくらいの高さがあります。

そして、この古墳は伊吹山で足を蛇にかまれたヤマトタケルが、白鳥の背に乗り東谷山のふもとまで飛んできました。が、力尽きて白鳥はそこで死んでしまいました。そこでヤマトタケルが白鳥を葬ったのが白鳥塚古墳と言われています…という伝説があります。

⑤ 横穴式の東谷山白鳥古墳

白鳥塚古墳をあとに徒歩で家の裏道や獣道みたいなところを通り、大通りに出ると東谷山白鳥古墳に到着。市内で唯一完全な形で確認されている横穴式石室があります。石室は全長 9.8m、高さは 2.4m。みんな中に入ってみました。大きな石がいまにも落ちてきそうであり気持ちの良い所ではありませんでした。でも、6 世紀末に造られたものが今もきちんとした形で残っていることは素晴らしいの一言に尽きます。



石室の入り口と内部

この後、東谷山フルーツパークに立ち寄り予定通り 16:30 帰着しました。